

目録を手渡す3社の代表者たち（左から佐藤常務、佐々木会長、三浦支社長）＝大館市役所



鮮度保持袋の売り上げ 一部を大館市に寄付 取り扱い3社

生分解性鮮度保持袋「アピノンキーパー」を取り扱う「モアデイバイス」（本社・東京都墨田区）など3社が現金計15万円を大館市に寄付した。10日、市役所で贈呈式が行われ、今後3年間売り上げの一部を継続的に寄付する意向を伝えた。

同商品はモア社が独自の技術で製造し、青果物や肉、魚の鮮度を長く保つ特徴がある。商社「高速」（仙台市）が卸し、スーパーを営む伊徳（大館市）が5枚入り税別198円で販売している。

モア社の佐々木直樹会長＝同市出身、高速北東北支社の三浦幸記支社長、伊徳の佐藤良人常務が贈呈式で福原淳嗣市長に3社連名の目録を手渡した。

佐々木会長が「市に貢献したい」と寄付について経緯を説明。2026年5月まで当面、売り上げの5%相当を障害者の社会参加促進目的で寄付する意向を示し「できるだけ少しずつお手伝いしたい」と述べた。

福原市長は保持袋を私生活で愛用しているように、寄付に感謝した。